

経営比較分析表（平成29年度決算）

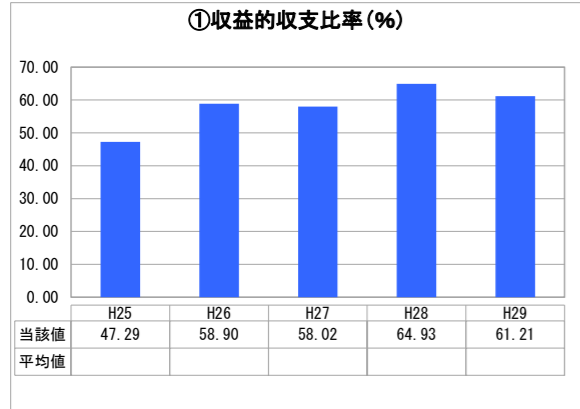
岩手県 野田村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	11.61	93.53	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,315	80.80	53.40
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
506	0.18	2,811.11

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



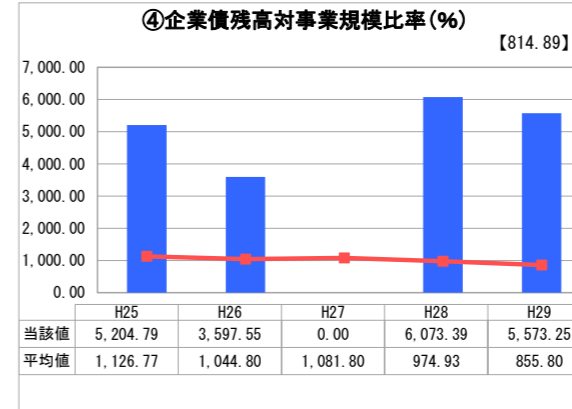
「単年度の収支」



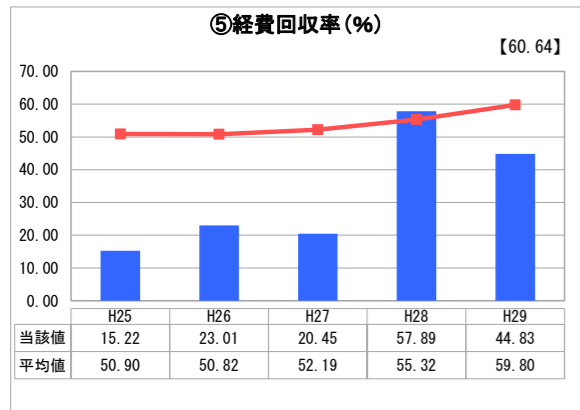
「累積欠損」



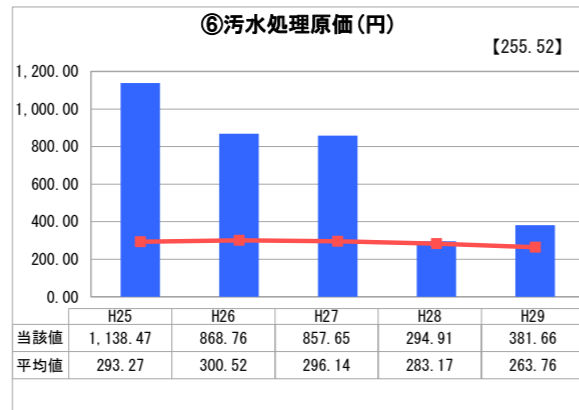
「支払能力」



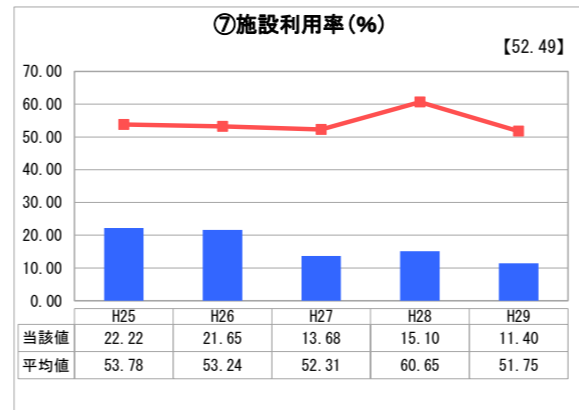
「債務残高」



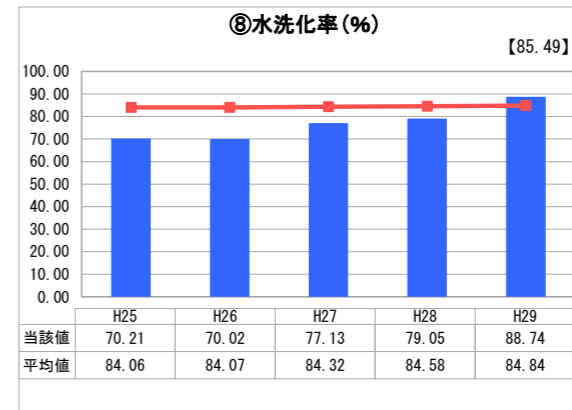
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

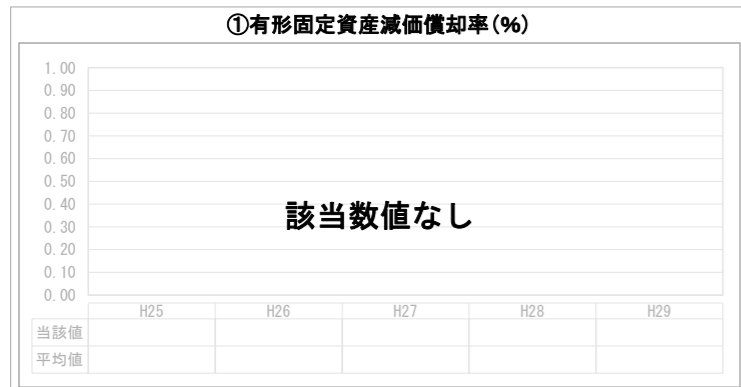


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

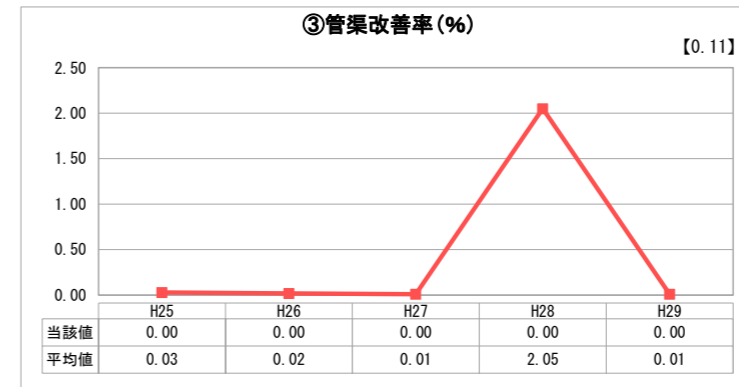
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、地方債償還金等が低迷原因と考えられます。
 企業債残高対事業規模比率は類似団体平均より高い数値であるが、今後、地方債残高の減少に伴い平準化するものと考えられます。
 経費回収率は、類似団体平均を下回りました。地方債の償還には一般財源の繰入に依存せざるを得ないため、今後も可能な限りの経営改善に努めます。
 汚水処理原価は類似団体平均程度に改善されているため、今後も接続率の向上に努め、適正化を継続していきます。
 施設利用率は類似団体平均を下回っております。人口減少による要因もありますが、接続率のさらなる向上に努め健全化を図ります。
 水洗化率は類似団体平均を上回りましたが、更なる経費回収率の向上及び汚水処理原価の適正化のため、更なる接続推進に努めます。

2. 老朽化の状況について

現在供用開始から19年と経年が浅いが、今後老朽化による修繕が見込まれるため、適期の老朽化対策に努めます。

全体総括

集落排水施設は水環境を守るために、今や不可欠な施設です。
 将来にわたり継続的に維持するために、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減に努め、経営の健全化を図ります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。